

環境アセスメント学会

2017年度 第16回大会プログラム

日程 2017年9月1日（金）、2日（土）

会場 山梨県立大学 飯田キャンパス （甲府市飯田5丁目11-1）

大会スケジュール・プログラム概要

大会1日目（9月1日、金曜日）

午前	9:00- 大会受付 (B館1階エントランス)		
	10:00-12:00 (B館120教室) 特別集会 テーマ「グリーン・リージョン と生物多様性オフセッ ト・バンキング」	10:00-11:45 (B館207教室) 一般研究発表 セッション1 「政策、制度」 6件	10:00-11:40 (B館208教室) 一般研究発表 セッション2 「風力・火力発電」 6件
午後	12:00-12:30 ポスターセッション・コアタイム (B館1階エントランス) 情報委員会ポスター及び島津資料の展示 「民間の環境アセスメント資料のアーカイブ化に向けて」 「アセス・アーカイブス“島津”」島津康男（名誉会員） (展示は9月1日10:00～9月2日12:00) *ポスター発表者は9月1日10時までに掲示、9月2日12時までに撤去		
	12:30-13:30 昼食 / 理事会(B館302教室)		
	13:30-13:40 開会式 (講堂) 開会挨拶 田中充（本学会会長）		
	13:40-14:30 特別講演 (講堂) テーマ「富士山の保全管理と景観配慮の取り組み」 雨宮康（山梨県世界遺産富士山課）		
	14:30-17:10 大会実行委員会主催シンポジウム (講堂) テーマ：「太陽光発電の普及と環境アセスメント」 ・司会進行：上杉哲郎（本学会理事） 1) 趣旨説明 【14:30～14:35】 二宮浩輔（本学会理事・大会実行委員長） 2) 話題提供 【14:35～15:55】 ・「太陽光発電施設の適正導入にガイドライン」和泉正剛（山梨県エネルギー政策課） ・「長野県の環境アセスメントと太陽光発電」是永剛、寒河江淳、塩沢能好人（長野県環境政策課） ・「地域社会に受け入れられる太陽光発電とは」有木正浩（ネクストエネルギー・アンド・リソース㈱） ・「太陽光発電所の自主簡易アセスと住民意見の動向」傘木宏夫（本学会常務理事・NPO地域づくり工房） ～休憩15分【15:55～16:10】～ 3) パネルディスカッション（報告者及び会場より）【16:10～17:10】 コーディネーター 片谷教孝（本学会副会長）		
	休憩10分		
	17:20-17:40 奨励賞受賞記念講演 (講堂) 実務部門受賞者 田中亨（オオバ（株）） 「大規模建築物新設事業における風環境解析に関する取り組み等について」		
	17:40-17:50 優秀ポスター賞授賞式		
	18:00-20:00 地元食材や地ワインを楽しむ懇親会 (B館2階カフェテリア)		

大会2日目(9月2日、土曜日)

午前	8:30- 大会受付 (B館1階エントランス)		
	9:00-10:25 (B館120教室) 一般研究発表 セッション3 「調査・予測・評価」 5件	9:00-10:15 (B館207教室) 一般研究発表 セッション4 「事例」 5件	9:00-10:35 (B館208教室) 一般研究発表 セッション5 「国際、他」 5件
午後	11:00- エクスカーション 11:00 バスにて移動		
	12:00~16:00 富士山世界遺産センター、及び、忍野八海等 ※解散時間と場所 16:00富士急「富士山駅」 →17:00甲府駅 →17:15山梨県立大学		

【プログラム詳細】

特別集会 「グリーン・リージョンと生物多様性オフセット・バンキング」

■日時： 大会1日目 2017年9月1日(金) 10:00~12:00

■場所： 山梨県立大学 飯田キャンパス B館120教室

■進 行

・司会進行： 田中 章(本学会常務理事・東京都市大学)

1) 趣旨説明【10:00~10:08】

「本特別集会の趣旨：グリーン・リージョンと生物多様性オフセット・バンキング」

田中 章(本学会常務理事・東京都市大学)

2) 各方面からの話題提供【10:08~11:00】

(1) 「『環境影響評価における生物多様性保全に関する参考事例集』の紹介」

熊倉 基之(環境省大臣官房環境影響評価課課長)

(2) 「山梨県の環境影響評価制度と生物多様性オフセット事例」

古屋 敏彦(山梨県森林環境部大気水質保全課課長)

(3) 「アメリカの生物多様性オフセットの動向」

若井 英樹(日弁連公害環境委員会委員・虎の門法律事務所 弁護士)

(4) 「生物多様性オフセットの導入に関するニーズ調査と千葉県での実証研究」

新井 聖司((一社)日本環境アセスメント協会自然環境影響評価技法研究会・大日本コンサルタント(株))

3) コメンテーターからの意見【11:00~11:15】

(1) 「民間デベロッパーからみた課題」

高田 秀之(東急不動産(株))

(2) 「国際環境コンサルからみた動向」

坂口 学(イー・アール・エム日本(株))

(3) 「生物多様性オフセットとグリーンインフラ」

舛田 陽介(三菱UFJリサーチ&コンサルティング(株))

4) パネルディスカッション・質疑応答・まとめ【11:15~12:00】

情報委員会ポスター及び島津資料の展示

■日時： 大会期間中【コアタイム 9月1日(金) 12:00-12:30】

■場所： B館1Fロビー ポスター会場

「民間の環境アセスメント資料のアーカイブ化に向けて」

「アセス・アーカイブス“島津”」島津康男(名誉会員)

一般研究発表プログラム（注：肩書きは報告者のみ、A、Bは発表時間による分類）

大会1日目【9月1日（金）】

第一会場 B館207教室

セッション1「政策、制度」 座長：藤田八暉（本学会常務理事）（座長補佐：柴田裕希）

1	10:00-10:20 A	「二酸化炭素回収・貯留の戦略的アセスメントの枠組み研究」 ○柳憲一郎（明治大学）、小松英司、中村明寛
2	10:20-10:40 A	「二酸化炭素回収・貯留の実施における長期的な環境保全の課題とその政策」 ○小松英司（明治大学）、柳憲一郎、中村明寛
3	10:40-11:00 A	「計画段階環境配慮や電子縦覧のあり方について ー道北地方の風力発電アセスの事例からー」 ○後藤達彦（NPO法人エンビジョン環境保全事務所）、謝倩氷、長谷川理
4	11:00-11:15 B	「環境影響評価条例における軽微な修正及び軽微な変更等の地域性及び独自性に関する研究」 ○田村大（(株)東京久栄）、中野敦、山根隆幸、森本尚弘、湯浅晃一、濱田敏宏、沖山文敏
5	11:15-11:30 B	「企業活動に資する自主的環境アセスメントの認証制度構築に向けて」 ○安藤伸彦（(一社)日本環境アセスメント協会）、内山和也、大谷正太、土門優介、中田俊宏、吉田豪 ※発表辞退
6	11:30-11:45 B	「環境影響評価法対象事業における供用後の運用変更について」 ○花岡千種（岡山大学）、會田義明

大会1日目【9月1日（金）】

第二会場 B館208教室

セッション2「風力・火力発電」 座長：石野耕也（本学会理事）（座長補佐：錦澤滋雄）

1	10:00-10:20 A	「環境アセスメントデータベース“EADAS”の活用に向けて」 ○會田義明（環境省）、横山貴志子、久保井喬
2	10:20-10:35 B	「風力発電等に係るゾーニング導入可能性検討モデル事業について」 ○久保井喬（環境省）、井上直己
3	10:35-10:50 B	「風力発電等に係る地域主導による適地抽出の手法に関するガイドについて」 ○郡島啓（環境省）、井上直己、坂田修一
4	10:50-11:05 B	「福島県における風力発電の陸上・洋上での開発可能性評価」 ○山岡暁（宇都宮大学）、嶋村魁太、松本美紀
5	11:05-11:25 A	「静穏な風力発電施設周辺における指針値による騒音評価の問題点 ー残留騒音の季節変化と測定マニュアルでの騒音レベル変動の関係ー」 ○内田英夫（エヌエス環境(株)）
6	11:25-11:40 B	「石炭火力発電所の環境アセスメントに関する現状と課題」 ○大井 通博（環境省）、伊藤 史雄、谷本 昌敏

大会2日目【9月2日（土）】

第一会場 B館120教室

セッション3「調査・予測・評価」

座長：矢持進（本学会理事）

（座長補佐：矢代幸太郎）

1	9:00-9:15 B	「大気質の予測における煙突高さの複数案について」 ○市川陽一（龍谷大学）
2	9:15-9:30 B	「愛媛県中島での水素エネルギー導入の社会的受容の検討」 ○入江賀子（愛媛大学）、川原尚子
3	9:30-9:50 A	「鳥類からみた諫早湾干拓調整池と周辺がもつ生物多様性に関する意義」 ○大杉智美（(一財)九州環境管理協会）、大井和之、武元将忠、矢永純一
4	9:50-10:10 A	「地域における環境負荷推計に交通量（走行台キロ）を用いる場合の課題」 ○鹿島茂（中央大学）
5	10:10-10:25 B	「里山における生物多様性オフセットへの海外評価手法適用の課題に関する考察」 ○渡部陽介（(一社)日本環境アセスメント協会、清水建設株）、井出功一、才木祥史、青島正和、城本太郎、東郷有城、堀吉博、松岡明彦、渡邊千佳子、小田信治、田中章

大会2日目【9月2日（土）】

第二会場 B館207教室

セッション4「事例」

座長：松永忠久（本学会理事）

（座長補佐：田中亨）

1	9:00-9:15 B	「太陽光発電事業に係る自主的な環境アセスメントに関する基礎的検討」 ○尾原 正敬（(一社)日本環境アセスメント協会、(株)千代田コンサルタント）、青木淳、小野寺一剛、上田夏希
2	9:15-9:30 B	「人口減少下の持続可能性アセスメントの実践」 ○倉阪秀史（千葉大学）
3	9:30-9:45 B	「国内における生物多様性オフセット制度の導入に向けた検討」 ○小笠原奨悟（(一社)日本環境アセスメント協会、パシフィックコンサルタンツ(株)）新井聖司、加藤靖広、辻阪吟子、西澤正、吉沢清晴、松宮綾香、川村昂史、田中章
4	9:45-10:00 B	「愛知県海上の森におけるギフチョウ（ <i>Luehdorfia japonica</i> ）のHSIモデル構築」 ○川村昂史（東京都市大学）、野島優理子、田中章
5	10:00-10:15 B	「戦略的環境アセスメント（SEA）・配慮書に関する研究（構造・配置検討段階の複数案の設定事例及び風力発電事業の配慮書の課題検討）」 ○吉田研也（(一社)日本環境アセスメント協会、日本工営株）、橘川泰憲、山岸丈二、酒井剛、水口拓、中村純也、皆川克志、濱田敏宏

大会2日目【9月2日（土）】

第三会場 B館208教室

セッション5「国際、他」 座長：石川公敏（本学会理事）

（座長補佐：長岡篤）

1	9:00-9:20 A	「海底資源調査・開発に係る環境影響評価に必要な諸原則と国際動向について」 ○柴田 由紀枝（横浜国立大学）、松田 裕之、吉田 公一、中村 由行
2	9:20-9:40 A	「中華人民共和国における戦略的環境アセスメント(SEA)実施の最新動向に関する考察」 ○劉 文（(株)国際開発センター）、林田 貴範
3	9:40-9:55 B	「開発援助によるインフラ整備事業を対象としたモニタリング レポートの傾向分析 -アジア開発銀行の融資による道路・鉄道建設事業を対象として-」 ○安元 彩佳（東京工業大学）、村山 武彦、錦澤滋雄
4	9:55-10:15 A	「「住民アセス」の再定義を試みる」 ○傘木 宏夫（NPO地域づくり工房）
5	10:15-10:35 A	「CSRとインパクト・アセスメント」 ○原科 幸彦（千葉商科大学）

ポスターセッション（注：肩書きは主報告者のみ）

大会1日目【コアタイム 9月1日（金）12:00-12:30】

B館1Fロビー ポスター会場

※「若手部門」は優秀ポスター賞の候補となります。

1	「西宮日石コンビナート建設反対運動における住民アセス」 傘木 宏夫（NPO地域づくり工房）	一般
2	「北九州市環境影響評価条例の運用状況について」 森井 春樹（北九州市）	一般
3	「風力発電アセスメントにおけるオジロワシの鳥衝突確率モデルの精度検証」 山田 芳樹（(株)ドーコン）、鈴木祐太郎・山口珠輝・藪原佑樹・森口紗千子・赤坂卓美・ 河口洋一・関島恒夫	一般
4	「名古屋市の森の生態系サービス空間評価」 林希一郎（名古屋大学）、小林航、吉野奈津子	一般
5	「沖縄北部東岸におけるミドリイシ属サンゴの産卵場保全 ～大規模事業の撤去アセスの一 事例～」 矢代幸太郎（(株)東京久栄）、目崎拓真、倉橋俊介	一般
6	「里山バンクの実現可能性に関する研究」 松宮綾香（大成建設株）、田中章	一般
7	「風力アセスにおける風況観測鉄塔データの活用」 高橋雅也（(株)日立パワーソリューションズ）、見上 伸、根本玲央、牧 宏幸、魚崎耕平	若手
8	「死体持ち去り速度に対する風車密度と死体サイズの依存性 -風車への鳥類衝突確率の精 度向上を目指して-」 瀧澤はるる（帯広畜産大学）、赤坂卓美、河口洋一、藪原佑樹	若手
9	「スマートフォンを用いたサウンドスケープ概念の生態系評価への応用」 相野田幸司（東京都市大学）、田中章	若手
10	「船橋市における人口・緑地分布の時系列解析による持続可能性アセスメントの長期的予測 評価の試み」 伊藤夏生（東邦大学）、柴田裕希、杉田暁、林希一郎	若手
11	「基礎自治体における空き家率の時空間分布の推計手法 ～千葉県船橋市を事例に～」 渡邊 豊（東邦大学）、柴田裕希、伊藤夏生	若手

大会会場のご案内

■交通についてのご案内（なるべく公共交通機関をご利用願います）

JR甲府駅（南口）より徒歩 25 分（新宿～甲府間は 30 分間隔で特急列車が運行されています）

※甲府駅南口に案内人を立てます。タクシーの乗り合わせにてご来場ください（1メーター＋α）

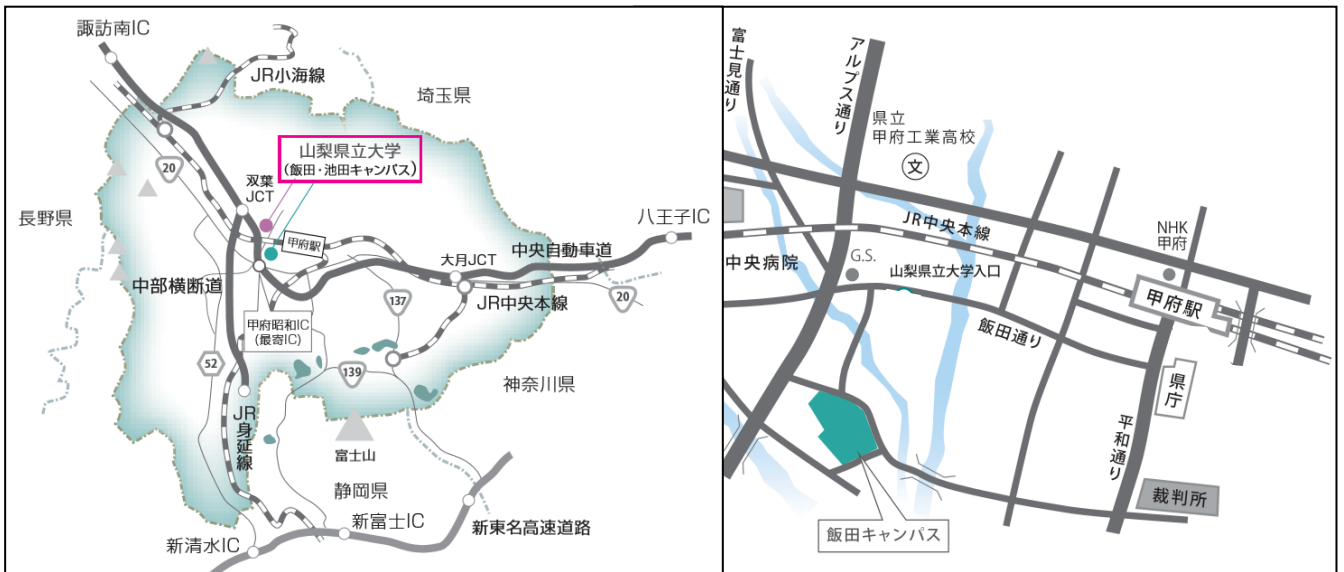
■高速バス（乗り場はJR甲府駅南口）

※各方面からの便がありますので、山梨交通や「ハイウェイバス・ドットコム」などのサイトをご参照下さい。新宿（28 便） 横浜（2 便） 羽田空港（4 便） 成田空港（6 便） 京都・大阪（2 便） 名古屋（3 便） 静岡（2 便）

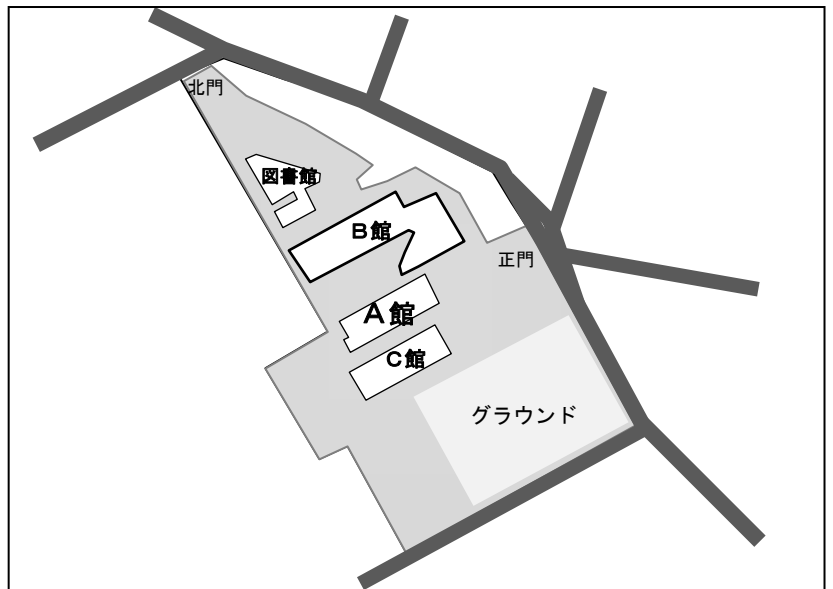
■自家用車 中央道「甲府昭和」ICより約 5 km

（大学に駐車場はありますが、なるべく公共交通機関をご利用願います）

山梨県立大学飯田キャンパスの位置・構内図



受付をはじめシンポジウムや懇親会等ほとんどの催事はA館で行われます。館内の案内表示をご覧ください。



■会場周辺

大学内の食堂は休業日です。大学周辺には食事をできる場所はほとんどありません。（参加申込用紙に弁当（お茶付）の申し込み欄を設けていますので、申し込みをされることをお勧めします。）

■宿泊についてのご案内（事務局からのあっせんはありません）

甲府駅周辺にビジネスホテル等が多数あります。他に、湯村温泉（会場から 3 km 以内）や石和温泉（甲府駅から電車で 7 分）でのご宿泊も選択肢としてあります。

大会実行委員会主催 公開シンポジウム 「太陽光発電の普及と環境アセスメント」

2011年3月の東日本大震災とそれともなう福島第一原子力発電所の事故以降、我が国の電力生産を取り巻く環境は大きく変化し、新たな電源として再生可能エネルギーを活用する必要性が高まりました。なかでも太陽光発電は、2012年に電力固定買取制度の運用が開始されて以来急速に普及が進んでいます。しかし、再生可能エネルギーといえども、環境への配慮が適切になされず、これを大規模かつ拙速に普及を進めた場合には、環境への影響が懸念されるどころです。

特に山梨県及び長野県は、太陽光発電の好適地として、全国に先駆けてその普及が官民をあげて図られてきました。一方で、その急速かつ大規模な普及に対する環境への影響に関する懸念に応えるため、環境影響の程度や環境保全対策についての情報を適切な時点・内容で社会に提供することが求められています。

このような社会的要請に応え、近年、長野県では環境アセスメントの対象項目となり、また、山梨県では世界遺産・富士山を仰ぐ地域として適切な景観保全の対策を求めるガイドラインの改訂がされるなど、環境保全を組み込んだ適切な意思決定を支援する動きも見られます。

本シンポジウムにおいては、太陽光発電の普及にともなって生じている諸問題について、山梨県、長野県の事例を中心に、行政・事業者・NPOなどの立場から直面する課題を紹介していただくとともに、パネルディスカッションを通じて、太陽光発電の適切な普及を図る上で、環境アセスメントはどのような役割を果たすべきなのかについて議論したいと考えています。

司会進行：上杉哲郎（本学会理事・㈱日比谷アメニス）

1) 趣旨説明【14:30～14:35】

二宮浩輔（大会実行委員長・山梨県立大学国際政策学部教授）

2) 話題提供【14:35～15:55】

(1) 太陽光発電施設の適正導入に向けて【14:35～14:55】

和泉正剛（山梨県エネルギー政策課）

(2) 長野県の環境アセスメントと太陽光発電【14:55～15:15】

是永 剛（長野県環境政策課）

(3) 地域社会に受け入れられる太陽光発電とは【15:15～15:35】

有木正浩（ネクストエナジー・アンド・リソース㈱）

(4) 太陽光発電所の自主簡易アセスと住民意見の動向【15:35～15:55】

傘木宏夫（本学会常務理事・NPO地域づくり工房）

～休憩 10分【15:55～16:10】～

3) パネルディスカッション【16:10～17:10】

コーディネーター 片谷教孝（本学会副会長・桜美林大学）

環境アセスメント学会2017年山梨大会における特別集会
「グリーン・リージョンと生物多様性オフセット・バンキング
-生物多様性分野の環境アセスメントに対する可能性と期待」

■企画趣旨

「グリーン・リージョン、緑の地域 (Green Region)」とは、生態的な持続性 (Ecological Sustainability) を実現している地域のことです。このような地域では、我々ヒトやその他すべての生物の生存基盤である自然、生態系、ハビタットに対する「新たな (追加的な)」マイナス影響とプラス影響がバランス良く釣り合っています。今回のテーマは、「グリーン・リージョン」の形成において最も重要な役割を担うべき環境アセスメントの可能性についてです。

生物多様性分野の環境アセスメントとミティゲーションについては、ミティゲーション・ヒエラルキー、ノーネットロス、代償ミティゲーション (生物多様性オフセット)、ミティゲーション・バンキング (生物多様性バンキング)、HEP などの定量評価手法に代表される新しい概念や手法が紹介され、開発事業における生物多様性保全の在り方も少しずつ変化しています。

一方、地方では里山や里海などの放置された場所が増加し続けておりこれらの維持管理や、都市域に更なる導入が期待されるグリーンインフラや生物多様性配慮型緑地やその維持管理においては、生物多様性オフセットや In-Lieu-Fee を含むバンキングの可能性を認識する必要があります。

このような中、環境省はこの春に生物多様性オフセット関連事例を集めた報告書を公表し、この分野の議論の盛り上がりには大きな期待を寄せています。本特別集会は、行政官、内外の環境コンサルタント、法律家、デベロッパー、研究者など各方面から関係者をお招きし、グリーン・リージョン形成における環境アセスメントとミティゲーションの役割について、特に生物多様性オフセットや生物多様性バンキングの可能性に着目して議論するものです。環境アセスメント関係者はもちろん都市緑化や里山生態系保全に興味がある皆様の積極的な参加も歓迎します。

■進 行

・司会進行： 田中 章 (本学会常務理事・東京都市大学)

1) 趣旨説明

「本特別集会の趣旨：グリーン・リージョンと生物多様性オフセット・バンキング」

田中 章 (本学会常務理事・東京都市大学)

2) 話題提供

- (1) 「『環境影響評価における生物多様性保全に関する参考事例集』の紹介」
熊倉 基之 (環境省総合環境政策局環境影響評価課課長)
- (2) 「山梨県の環境影響評価制度と生物多様性オフセット事例」
古屋 敏彦 (山梨県森林環境部大気水質保全課課長)
- (3) 「法律家から見たアメリカの生物多様性オフセット・バンキングの動向」
若井 英樹 (日弁連公害環境委員会委員・虎の門法律事務所 弁護士)
- (4) 「生物多様性オフセットの導入に関するニーズ調査と千葉県での実証研究」
新井 聖司 ((一社)日本環境アセスメント協会自然環境影響評価技法研究会・大日本コンサルタント(株))

3) コメンテータからの意見

- (1) 「民間デベロッパーからみた課題」
高田 秀之 (東急不動産(株))
- (2) 「国際環境コンサルからみた動向」
坂口 学 (イー・アール・エム日本(株))
- (3) 「グリーンインフラから見た期待」
舩田 陽介 (三菱 UFJ リサーチ&コンサルティング(株))

4) パネルディスカッション・質疑応答・まとめ